

【高等部 職業 実践の概要】

○高等部3年 職業 (単一障がい学級)

○本時の題目：「次の日の仕事を考えた余暇の過ごし方を計画して発表してみよう」

○本時の目標：

・友だちのスケジュールを見て、「働く人としての視点」をもって計画されているか判断することができる。

(思・判・表)

・友だちからの意見やアドバイスを受けて、自分の計画のよさを確認したり、変更点や新たに組み込みたい項目を考えたりすることができる。(思・判・表)

授業者のねらいとしては「卒業後の就労生活を想定し、リフレッシュするために充実した余暇を過ごして、仕事を行ってほしい。また人によってリフレッシュの仕方に違いがあることを知ってほしい」というものであった。そこで、休みの日の過ごし方の予定表を作成し、友だちと意見交換をしながら、余暇の過ごし方を見直す授業を行った。友だちの余暇の過ごし方を聞くことで、自分との違いに気づき、翌日の学校生活に影響が出ないかといった視点で、意見を言い合う活動を通して、自分の余暇の過ごし方を見直す授業であった。

【良かった点・工夫されていた点】

○半年後に就労を控えた生徒ということもあり、卒業後の生活を見据えた視点で余暇を考えさせたことで、生徒自身も自分事として取り組む姿が見られた。

○ペア活動にし、一人の余暇の過ごし方に焦点を当てて聞くことで、具体的に質問をしたり、自分と何が違うのかという視点で考えたりと集中して取り組む様子が見られた。

○ペア活動中も、生徒自身で前時の学びを振り返る場面が見られるなど、生徒自身が主体的に取り組み、思考しようとする姿が見られた。

○ペアで話し合う場面で、生徒の発言を尊重しながらも、教師が、「それはどういう意味かな」と尋ねることで、より具体的な話し合いの場になっていた。

○生徒のワーキングメモリーを意識し、ポイントとなることは掲示する工夫が見られた。

【課題】

○ワークシートに記入する量が多かったため、予定よりもペアトークを行う時間を確保することができなかった。

○生徒にこう答えたら模範解答になると意識している様子が見られた。そのため、ランニングを余暇にしている生徒の場合、雨天の場合はどうするのかといったより具体的な部分までは考えが至っていなかった。

【助言】

○以前の授業に比べて、活動やめあてを焦点化することができていたが、書く量が多くなりすぎていた。この時間では書くことが主の活動なのか、話し合うことが主の活動なのかを明確にし、話し合うことを主の活動にするのであれば、箇条書きやメモ書き程度でよいことを生徒に理解させておくこと。

○ランニングを余暇にしている生徒の場合、雨天の時はどうするのか、ネットゲームを余暇活動にしている生徒の場合、ネット上の友だちとタイミングが合わない場合はどうするのか等、より具体的な場面を想定して話し合えるように条件を設定する必要がある。

【総括】

卒業後の自分の姿を想定することで、生徒が主体的に考える姿が見られる授業となっていた。また、グループ協議ではなく、ペアトークにしたことで、一つの事例に集中して思考することができ、活発に意見交換できる授業となっていた。卒業後の自分を想定することで主体的に取り組み、友だちとの違いを対話を通して思考する場面があり、よりよい余暇の過ごし方を導き出そうとする深い学びになっていた。